

# 東秩父村における 公共交通再編

1



埼玉県東秩父村 企画財政課

## 東秩父村の地勢

### ▶ 人口

2,873人（平成30年5月1日現在）

### ▶ 位置

埼玉県西部に位置する県内唯一の村

### ▶ 特産物

和紙「細川紙」（平成26年11月にユネスコ無形文化遺産登録）

### ▶ 観光資源

花（ポピー、花桃、桜、あじさい、彼岸花・・・）

ハイキング

秩父高原牧場

北限のみかん狩り



和紙漉き体験



天空のポピー

## 当村における公共交通（再編前）

### ➤ 鉄道駅なし

### ➤ 路線バス

#### ・村営バス

-昭和52年から村内と寄居駅とを結ぶ路線（市町村自家用有償運送）

-平日12往復、休日7往復（年始3日除き無休）

#### ・民間バス

-小川町駅と村内とを結ぶ路線

-現在の運行会社の前に2社が運行していたが撤退

-平成19年よりイーグルバス株式会社において運行を開始し、現在に至る

-平日上り14本、下り15本、土・日・祝祭日12往復（年中無休）

### ➤ その他

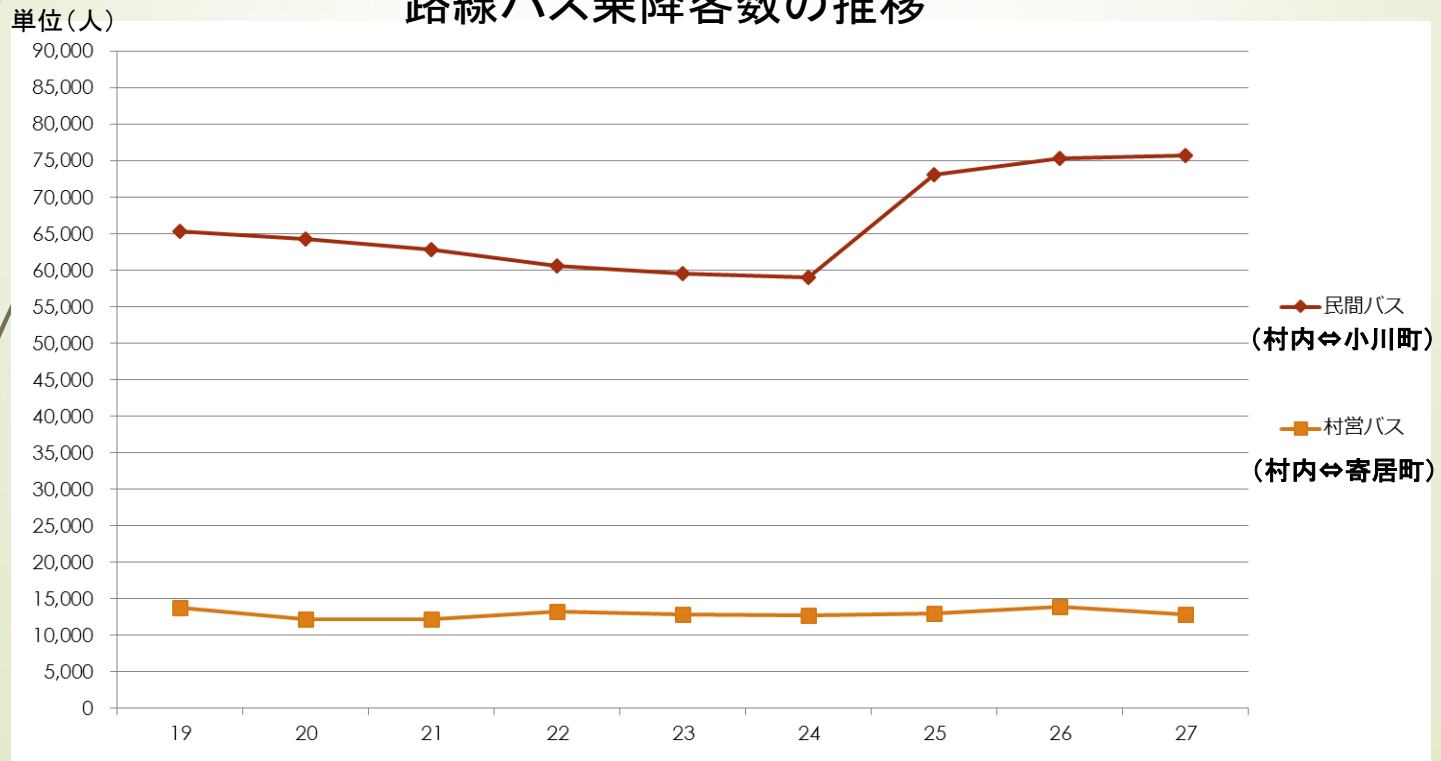
・公共交通空白地有償運送（過疎地有償運送）が平成18年より運行



## 当村における公共交通（再編前）

- 再編前（平成25年～平成27年）の民間バスの年間乗降客数は75,000人前後を推移
- 村営バスは年間15,000人弱を推移

### 路線バス乗降客数の推移



# 当村における公共交通の課題と対策

	村営バス	民間バス
課題	運転手の人材不足	—
	利用者の減少	利用者の減少
	運行経費の増大	運行経費の増大

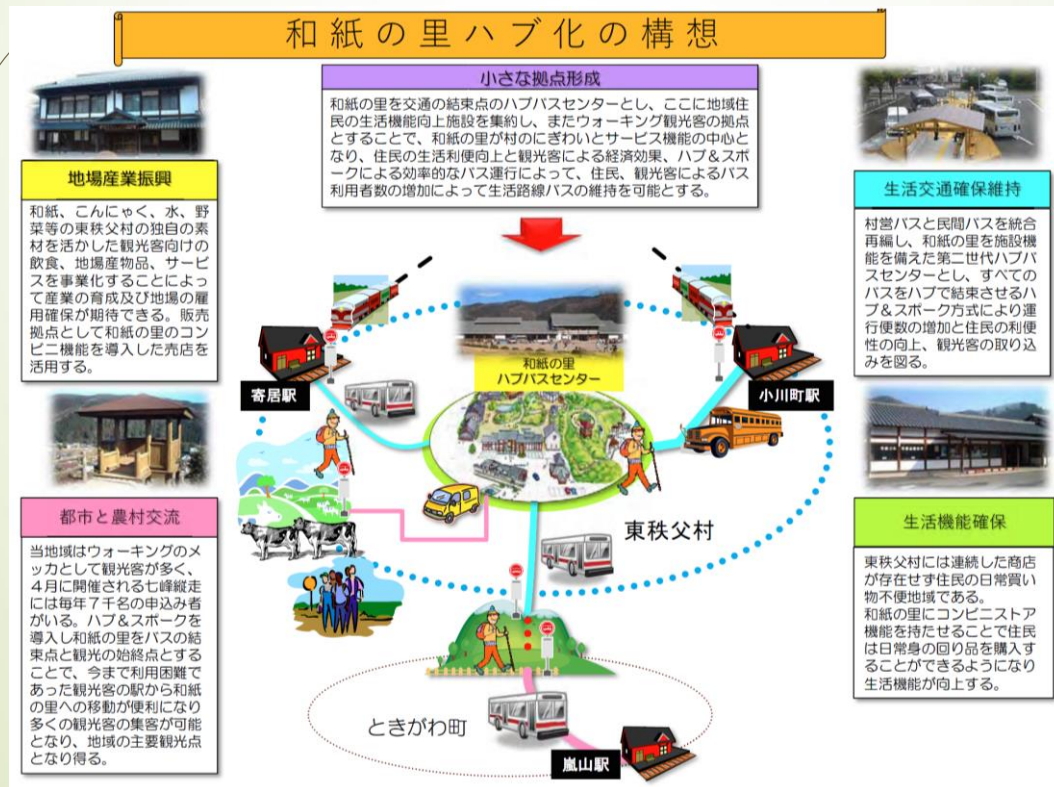
共通課題

## 対策

- ▶ 「和紙の里」ハブ化構想
  - ・ 村の中心に位置する体験型観光施設「和紙の里」に路線バスターミナルを整備し、公共交通の結節点とすることで、運行本数を増加させ利便性の向上を図り、住民＋観光客の利用増加による路線の維持

# 「和紙の里」ハブ化構想

- 新たな生活・交通・観光の拠点となるよう、体験型観光施設の「和紙の里」に様々な機能を備えた複合施設を整備
- 「和紙の里」を交通結節点のハブバスセンターとし、全てのバスが結束させることにより、運行本数の増加や利用頻度が高い時間帯に多くのバスを運行させることで利便性の向上を図る



## 再編までの流れ

- 「和紙の里」ハブ化構想後、当村では財政状況を考慮しながらも、住民や観光客の交通手段を確保することが必要と考え、公共交通再編と交通拠点施設の整備を計画した「東秩父村地域公共交通再編実施計画（H28）」を策定

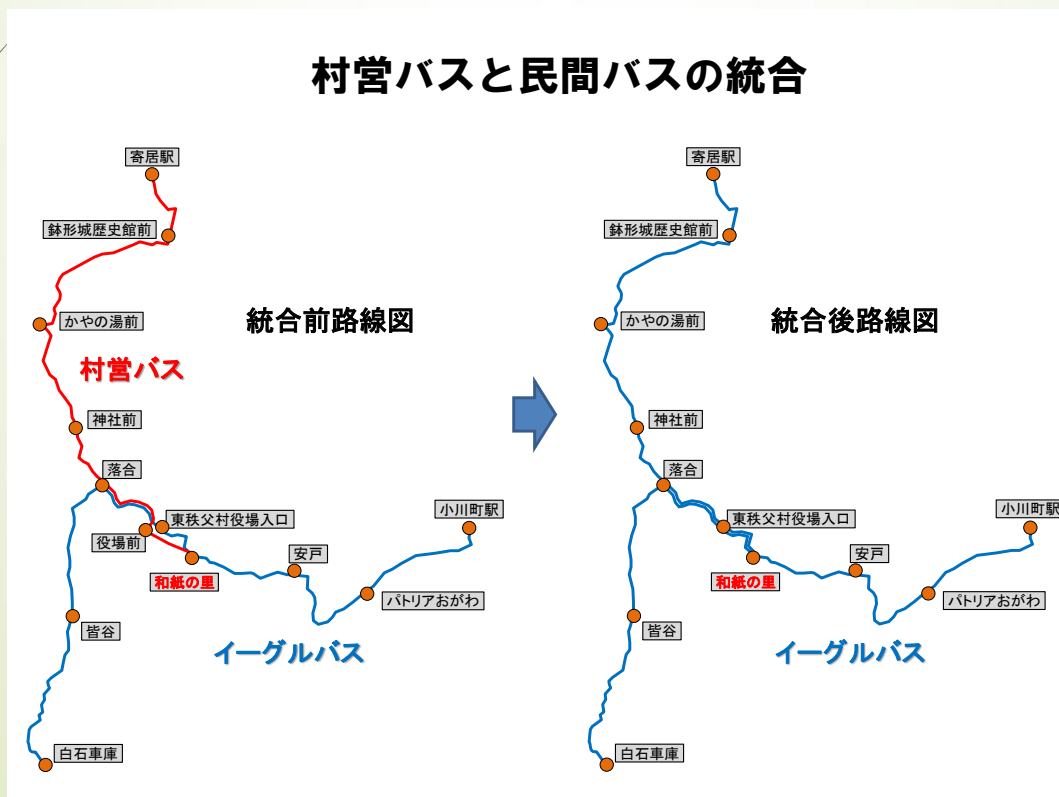
年次	再編・取組内容
H24～25	「和紙の里」ハブ化構想
H26	東秩父村地域公共交通網形成計画の策定 施設整備コンセプト及び配置計画
H27～28	東秩父村地域公共交通再編実施計画の策定 「和紙の里」施設整備
H28.10	公共交通再編及び施設供用開始



# 再編内容①

## 村営バスと民間バスの統合

- 当村とバス事業者が連携して、和紙の里～寄居駅間の村営バスを廃止し、民間バスへ統合することにより、運行経費の削減と運転手不足を解消





## 再編内容②

- ▶ 和紙の里をハブ（交通拠点）としたバス路線の再編
  - ・「和紙の里」を村内のハブとし、従来の4路線から「小川町駅～和紙の里」、「小川町駅～白石車庫」、「寄居駅～和紙の里」の3路線に再編
  - ・全路線が「和紙の里」を発着または経由することによりバス路線が結束され、運行の最適化と乗り換えの利便性を図る

再編前	再編後
小川町駅～白石車庫 (平日14本・休日18本)	【継続】小川町駅～白石車庫 (民間バス) (平日12本・休日16本)
和紙の里～寄居駅 (村営バス) (平日24本・休日14本)	【継続】和紙の里～寄居駅 (民間バス) (平日12本・休日6本)
—	【新設】小川町駅～和紙の里 (民間バス) (平日22本・休日18本)
【廃止】小川町駅～東秩父村役場入口 (平日4本・休日1本)	—
【廃止】小川町駅～皆谷 (平日11本・休日5本)	—

## 再編内容③

### 和紙の里の施設整備

- ・ 交通拠点として整備した「和紙の里」にバスターミナルを設置
- ・ バスターミナル整備に併せ、JA農産物直売所や特産品直売所、フードコート、宿泊施設、ふるさと文化伝習館など、日常生活や観光のための機能を集約した複合的な拠点「道の駅」に整備

和紙体験

和紙製品販売  
トータルサポートセンター  
(観光案内所)



JA 農産物直売所

バスターミナル

**道の駅 和紙の里ひがしちちぶ**

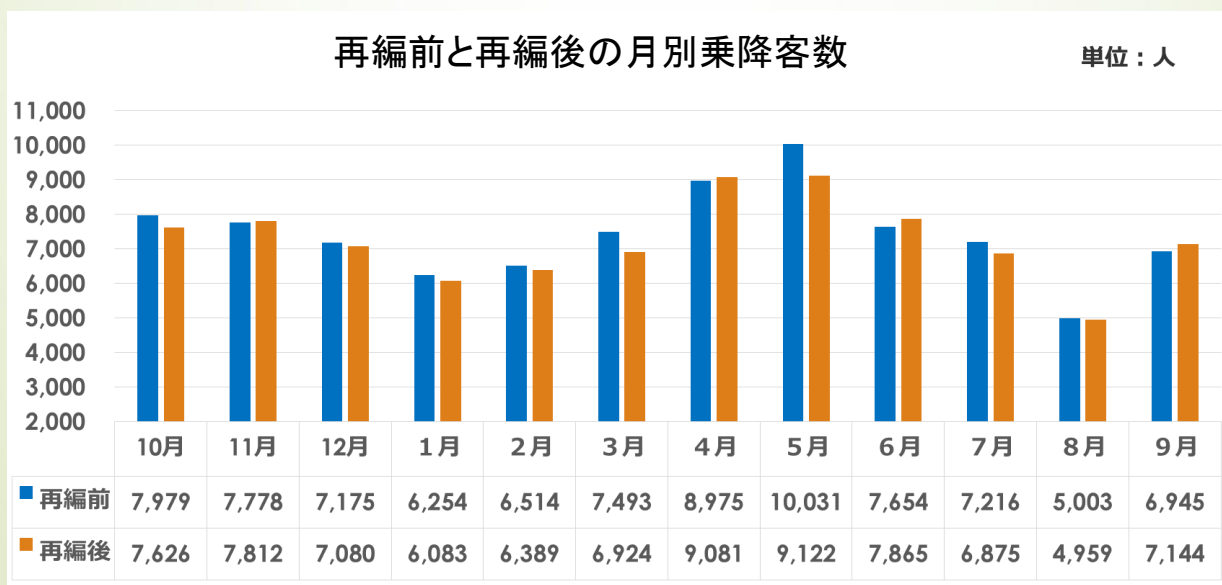
# バスターミナル

- 「和紙の里」に整備されたバスターミナルは、村産材を使用した木造のターミナルで、待合室の内装の一部には村特産の和紙を用いた温もりのある建物



## 再編後の効果

- 再編前、運転手の人材不足が課題であった村営バスは、民間バスへ統合されたため解消
- 村営バス・民間バス共通の課題であった利用者の減少は、2.3%減少※したが、バス運転手1人あたりの輸送人員（1ヶ月）は再編前と比べて約500人増加  
※旧村営バスも含めた数値
- 共通課題であった運行経費については、運送収入が増え、運行経費は削減



# 「和紙の里」来場者数の推移

- バスターミナルの他に、農産物直売所や和紙製品の販売所、フードコート、トータルサポートセンター（観光案内所）等を整備した結果、「和紙の里」への来場者数は近年増加傾向
- 村外、県外から人を呼び込み地域産業の発展に寄与

